

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2023年度 最優秀園
学校法人中沢学園 みなみ若葉こども園

11年という長きにわたり、「科学する心を育てる」保育の研究に、園全体で取り組みられてこられたことに、敬意を表します。低年齢からのさまざまな出会いや発見の積み重ねが土台となり、幼児期の好奇心・探求心に繋がっていることに気付かれたことから、1歳から5歳児までの連続した「科学する心」の育ちを詳細に分析し、視覚化した独自性のある論文です。

実践の記録から、「子どもの心の動きの変化と行動・姿の変容」と「主体的な活動によって生まれる力・経験の広がり」を、それぞれ「friend」「みんなだいすき」のキーワードを用いて集計、分析されています。これは、保育者の視点と関わりを丁寧に繋げて年齢ごとに整理するだけでなく、異なる年齢の子どもを看る保育者同士が、同じ視点で保育を振り返り、その後の保育者の関わりについて話し合うことのできる、大変興味深い手法です。さらに、こうした分析から導き出された貴園の考えを保護者にも伝え、保育内容への理解を深めたり、子どもたちの活動への協力につなげたりしています。実践事例としても、2歳児の水風船遊びからのさまざまな発見や、5歳児のお神輿の設計図からの対話や試行錯誤など、子どもたちの主体的な活動と育ち合いの姿が伝わってきます。

子どもも保育者も、縦の繋がりが大切であるという考えから、1歳から5歳児までの「科学する心」の育ちと道筋を、どの保育者も理解し、語り合える環境は、これからも大切にしてほしい、非常に素晴らしい園文化です。1歳からの発達段階に添った研究と園全体での取り組みは高く評価でき、今後も継続いただけることを期待します。